

「跳ね馬の如く、今年も更なる飛躍を目指す 台湾経済」

人事コンサルティング、日本企業の台湾進出事前調査、台湾現地法人の設立、運営サポート業務等を中心としたサービスを提供。日本の良き隣人「台湾」に関することなら、築いてきた人脈と自身の経験値を基に懇切丁寧にサポート。



2月の台湾は、旧正月前の慌ただしさと、連休を待ち望む人々の高揚感に包まれています。今年の干支は「馬」で、「馬上（すぐに）」という言葉にかけて、「スピード」や「加速」を象徴する表現が多く聞かれます。

1月は、上場企業の決算発表が集中し、2025年度12月における各上場企業の業績が出揃うことから、台湾経済の動向を占う重要な時期です。特に、半導体関連企業が注目を集め、経済成長の原動力となっています。

新年早々から、台湾経済の安定・成長を報じる明るいニュースが続いています。

＜跳ね馬の勢い、TSMC 社＞

台湾経済の原動力と言えば、電子・半導体関連業界が代表的ですが、その中心である TSMC（台積電）社は、世界経済に影響を及ぼすほどのグローバル企業として、存在感が際立っています。

新暦の年明け早々、TSMC 社の株価は、馬年にちなんで跳ね上がっており、台湾のマスコミ各社も、TSMC 社関連ニュースを連日報道しています。

TSMC 社の2025年度12月における単月連結売上高は3,350億元（約1兆6,700億円）を記録し、10月から12月の四半期（3ヶ月）連結売上高は、TSMC 社が単独での四半期（3ヶ月）連結売上高として目標に掲げる最低ラインの1兆元を初めて突破し、約1.05兆元（約5.2兆円）を達成しました。

今後、全世界的な AI 需要の波にのり、順調に業績を伸ばしていくことが予測されます。

＜台湾の新たな戦略拠点・マレーシア＞

台湾とマレーシアは、近年、半導体産業等を中心に経済的な連携が深まっています。

1980年から2024年の間、延べ1700社の台湾企業がマレーシアに進出し、業務を展開しています。

なかでも、台湾を代表する半導体パッケージメーカーである ASE（日月光半導体）社や、半導体測量装置の設計・製造販売で知られる WinWay（ウィンウェイ・テクノロジー）社等の有名企業が、ペナン州を中心に進出を果たしています。

ペナン州は、長期にわたって半導体産業推進地域としての役割を果たしており、600 社の台湾企業が拠点を構えています。また、350社以上の外国籍企業や4000社以上の中小企業群が進出するなど、現在では、全世界における半導体業界の売上高5%を担うまでに成長し、グローバル産業に貢献しています。

台湾で働くマレーシア人も増加しています。台湾の外国籍高度専門人材は、今や、日本人についてマレーシア人材が多くなっています。

2024年度には、台湾の不動産を購入した外国人として、アメリカ・日本・香港を抜いて、マレーシア国籍者が、一躍ランキングトップに躍り出たことが話題になりました。

全世界のサプライチェーンが多様化する中、マレーシアは、台湾企業にとって、中国・インド・シンガポール市場を見据えた生産や、サプライチェーン体制を管理していくうえで重要な拠点となっています。

こうした影響もあり、日本にも多数のフライト便をもつタイガーエアーでは、日本各地の地方路線網を拡充し、台北を経由する日本・東南アジア間のトランジット需要の開拓を一層強化し、東南アジア市場での営業強化を図っていくとの営業方針を打ち出しています。

2026年の台湾経済は、国際連携を図りながら、半導体産業を軸に、「跳ね馬」のごとく、一層躍進していくことが期待されます。